ＪＡグループ鳥取自己改革推進レポート（１１月号）

１．ＪＡグループ鳥取の取り組み

①　平井知事に出馬を要請　県知事と農政懇談会

ＪＡ鳥取県中央会と鳥取県農協農政協議会は１１月１６日、鳥取市で平井伸治鳥取県知事と農政懇談会を開いた。会の冒頭、来春の鳥取県知事選挙に向け、現職の平井知事に出馬を要請。ＪＡグループ鳥取の代表者らが県に対して持続可能な農業振興に向けた農業施策ついて要望し、意見を交わした。

生産資材価格の高騰により、農業者の経営が危機に直面し、国産農畜産物の安定生産や安定供給に支障をきたす恐れがある。持続的な食料安全保障の確立・強化の政策実現に向け、国に対し一層の働きかけを行うよう県に求めた。ＪＡ鳥取県中央会の栗原隆政会長は「食料安全保障の確立・強化や農地・農村の基盤強化が最重要課題。政策実現に向け農業者の声を国へ伝えてほしい」と要望した。平井知事は「これまで、県内農業振興の実現に向けＪＡグループとパートナーシップを組んで取り組んだ。今後も協力し合い難局を乗り切っていきたい」と話した。

ＪＡグループ鳥取は県に対し、①地域全体を考慮した堆肥処理施設整備に係る未利用資源の活用と広域での「みどりの食料システム戦略」取り組みの推進②将来の水田農業を見据えた米穀関連施設の再編③飼料高騰にかかる経営支援対策の継続―など６項目を要望した。

②　ＪＡグループ鳥取トップ広報と県内報道機関との意見交換

ＪＡグループ鳥取は１０月１４日、県内でＪＡグループ鳥取トップ広報と県内報道機関との意見交換会を開いた。１０月の「国消国産月間」の取り組みや食農教育活動を紹介し、持続的な地域農業を支える県内ＪＡの役割や農業振興などの取り組みをトップ広報した。

報道機関９社とＪＡグループ役職員の３０人が参加。ＪＡ鳥取県中央会の栗原隆政会長が「国消国産」運動の重要性や県内ＪＡ直売所を基点とした、地域で生産された農畜産物を地域で流通し消費する取り組みなどを説明し、理解を求めた。

県内で生産拡大を進めるブロッコリーの集出荷施設「ＪＡ全農とっとり野菜広域センター」や大山乳業農協のアンテナショップ「大山まきばみるくの里」を現地視察。出荷作業の軽減や農家所得の向上に向けた取り組みなどを紹介した。栗原会長は「ＪＡグループ鳥

取の取り組みの本質を理解していただき、お互いに情報の見える化を進めたい」と意気込んだ。

参加者から地域農業に対するＪＡグループ鳥取の取り組みについて質問があるなど、活発に意見を交わした。

③　地域教育の一環で中学校駅伝競走に協賛

県中学校体育連盟は１０月２５日、米子市で鳥取県中学校駅伝競走大会を開いた。ＪＡグループ鳥取は地域教育の一環で、今年で４８回目を迎える本大会に特別協賛し、地域農業に関心を持ってもらう取り組みを継続して行っている。

県内中学校から男女各３４チームが出場し、男子は６区間（１８キロ）、女子は５区間（１２キロ）を競った。ＪＡ鳥取県中央会の栗原隆政会長が女子の部のスターターを務め、大会を盛り上げた。ＪＡグループ鳥取は県産農産物などを提供。男女優勝チームに県ブランド米「星空舞」と決勝ゴールテープを贈った。

若者の「食」や「農」への関心を高めるため、乃木坂４６を活用した「国消国産」のぼり旗やポスターを掲示し、ＪＡグループが進める「国消国産」運動をＰＲした。

優勝チームは１２月１８日に滋賀県で行われる全国大会に出場する。結果は次の通り。▽優勝＝八頭町立八頭中（男子）・（女子）▽わかば賞＝倉吉市立久米中（男子）・（女子）

２．大山乳業農業協同組合の取り組み

令和４年度「食のみやこ鳥取県」特産品コンクール　菓子・パン部門で最優秀賞受賞

鳥取県産農林水産物を主原料とした優れた新商品を表彰することで、加工食品全体のレベルアップと販売促進を図るため平成２０年度から開催されている「食のみやこ鳥取県」特産品コンクールの菓子・パン部門にて、大山乳業農協のアイスクリーム「白バラプレミアム」ミルク、いちご、ブルーベリー＆クリームチーズが最優秀賞を受賞した。

審査員からは「”白バラ”　”プレミアム”のロゴもインパクトがある。味は濃厚で、文句なく美味しい。」と評価を受けた。

３．鳥取県畜産農業協同組合の取り組み

「じげ畜産ふれあい祭り」３年ぶりの開催

１１月５日に鳥取県畜産農協のじげ畜産ふれあい祭りをフレッシュパーク若葉台で３年ぶりに開催した。当日は朝から雨模様だったが、組合員や地元の皆さんがたくさん来場した。毎回人気の鳥取牛串焼きは好評で開始から長い列ができた。

また、第１２回全国和牛共進会鹿児島大会の出品牛の販売、つきたてのお餅、キッチンカーなどが好評で、地元の皆さんとの交流や鳥取県産牛の美味しさをアピールする機会となった。

４．ＪＡ全農とっとりの取り組み

①　ＪＲ大阪駅 Kitchen&Market で星空舞販売イベントを実施

１０月２１日（金）～１０月２７日（木）の７日間、ＪＲ大阪駅直結の駅型商業施設「ルクア」の地下２階にある「Kitchen&Market」で星空舞の推奨販売を実施。新米の星空舞をはじめ、桃屋さんとコラボしたお得な詰め合わせを販売するとともに各種お弁当などに新米の星空舞を使用した。

②　星空舞の新ＣＭ放送中

新米のスタートに合わせて「星空舞」の新しいＣＭの放送が始まった。昨年度に引き続き、鳥取県出身の映像クリエイター/ミュージシャンの山下歩氏の楽曲をＢＧＭに「弁当篇」と「リモート篇」の２本立てとなっている。

③　ひろしまフードフェスティバル２０２２にて「西条柿・輝太郎柿」を販売

１０月２９日（土）・３０日（日）の２日間、広島城周辺で「ひろしまフードフェスティバル２０２２」が開催された。このイベントは、地産地消を目的に広島県内の海の幸、山の幸など名産・特産品を一堂に集めた食の祭典で、３年振りの開催となった。東広島市西条地区が「西条柿のルーツ」と言われている縁もあり、例年鳥取県産の「西条柿」を販売している。本年は、「輝太郎柿」も同時に販売し、用意していた柿は両品種とも完売となった。

５．ＪＡ鳥取信連の取り組み

ＪＡの農業融資にかかる人材育成支援について

信連は、第５０回ＪＡ鳥取県大会の決議事項のうち「大規模な担い手への対応強化」を重点取組施策として、ＪＡの農業融資にかかる人材育成について、研修会を開催し、農林中央金庫と連携しながら支援している。

本取り組みでは、農業融資担当者研修会（４月２７～２８日・１７名参加）、農業融資実践力強化研修（年３回コースのうち１０月までに２回まで開催済み・１６名参加）を集合研修方式で開催した。

主な内容として、融資にかかる制度資金等の概要、青色申告書・決算書の見方・分析、営農類型別の特徴、農業法人へのアプローチ等を研修した。

また、農業融資実践力強化研修においては、座学のみならず、グループワークおよびロールプレイングを実施し、より実践的な学習で理解を深めていくことができた。

６．ＪＡ共済連鳥取の取り組み

ホテルモナーク鳥取　鳥取の食材にこだわった朝食にリニューアル

ＪＡ共済では、ホテルモナーク鳥取において、地域貢献活動の一環として県産食材を使用した地産地消料理教室を企画・販売している。ホテルモナーク鳥取では、従来の「和食会席料理」、「鉄板焼きコース」に加え、食で「鳥取」を感じる朝食料理メニュープランとしてバラエティ豊かなラインアップ（和洋の御膳＆ハーフバイキング）を１０月よりスタートした。

また、ホテルモナーク鳥取に宿泊すると、「ウェルカニとっとり得々割」全国旅行支援が１２月２０日まで利用可能となるため、この機会に朝食をぜひご賞味いただきたい。

ＪＡ共済は、県産食材を通じて安心をお届けするとともに、地域農業の活性化を応援する。

７．ＪＡ鳥取県中央会の取り組み

持続的なＪＡ組織基盤の確立・強化へ女性・青壮年組織の代表者と意見交換

ＪＡ鳥取県中央会は１１月４日、鳥取市でＪＡとっとり女性協議会とＪＡ鳥取県青壮年連盟との意見交換会を初めて開いた。１０年後を見据えた持続的なＪＡ組織基盤の確立・強化に向け、次代を担う女性・青壮年組織の代表者と意見を交わした。

ＪＡとっとり女性協議会とＪＡ鳥取県青壮年連盟の各組織の代表者ら６人とＪＡ鳥取県中央会の役職員ら計１４人が出席。中央会の栗原隆政会長は「ＪＡグループ鳥取の持続可能な農業・地域の未来づくりに向け、有意義な意見交換としたい」と話した。

ＪＡとっとり女性協議会は「会員増加に向けＪＡグループ役員層への取り組み周知」「ＪＡ内部で女性会事務局担当者の育成やバックアップができる体制づくり」について意見した。ＪＡ鳥取県青壮年連盟は「生産者に寄り添った営農指導体制の充実」、「デジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）の積極的な推進」などを要望し、活発に意見を交わした。

以上